

特別支援学校小学部における音楽教材の工夫と改善

附属特別支援学校：井上典子 宮井仁美 小林史
和歌山大学教育学部：菅 道子（研究代表） 上野智子

1. はじめに（共同研究の趣旨と経過）

附属特別支援学校小学部の音楽は、週に2時間設定され、4つの観点（歌唱、器楽、身体表現、鑑賞）を含む内容で構成されている。授業は、小学部1年生から6年生までの全児童14名を対象としている。生活年齢の幅が大きく、興味や関心を持っている事柄には違いがある。小学部では、より「やってみたい」という気持ち（意欲）が高まる中で、友だちと表現する楽しさを味わいながら無理なく基礎技能を習得していけるような授業展開を考えていくことが研究課題となっている。

そこで、本共同研究では、児童の実態を把握する小学部教員と音楽科教育の立場から授業実践を見る大学教員とで連携し、平成24年度から共同研究としてよりよい教材づくり・授業づくりを模索してきている。

研究の経過としては、下記の授業実践に結びつけるために、2018年11月12日（月）に大学教員が授業を参観し、カンファレンスを行った。2018年12月3日（月）に大学教員による授業（ハンドサイン）を行った。2月4日（月）には、大学教員と大学院生が授業を行う予定である。

2. 研究の目的

小学部教員と大学教員が共同で授業について検討し、「音楽」の授業における教材の工夫と改善を図る。

3. 課題に関して～授業改善にむけての大学教員とのカンファレンスより～

11月12日（月）のカンファレンスでは、歌唱の際に音階を意識できるような学習を系統的に入れていく必要性が見いだされた。児童の実態を見ると、歌詞カードを見ながら歌うだけでなく、音階の学習を系統的にしていこうとすることで、楽譜を提示して音階を意識しながら歌うことも可能ではないかと考えたからである。指導に当たって、まずはハンドサイン（手の動きで音の高さ、リズム、音楽の表情などを示して階名唱を効率よく導く方法）によって感覚的に音の高低や特性を学んで行けるように考えた。教材にはわらべうたから、「なべなべそこぬけ」と最近CMで耳にする機会が多く児童も口ずさむことの多い「一休さん」をとりあげることにした。

4. 授業実践～

（1）12月3日（月） 音階の学習《ハンドサインでわらべうた》——ハンドサインで音の特徴を学習する——

大学教員がハンドサインの導入部分の授業を行った。授業内容は絵本「ととけっこう よがあげた」の世界に入り込んで、繰り返し出て来る歌に合わせて「ソ」と「ラ」の音をハンドサインで表現するというものであった。

The image shows a musical score for the song 'ととけっこう よがあげた' (Totokekkou Yoga Ageta). The score is written on a single staff with a treble clef and a 2/4 time signature. The melody consists of quarter notes and rests. Below the staff, the lyrics are written: ととけっ こう よがあげ た まめでっ ぼう でておい で. Above the staff, there are three hand sign diagrams. The first diagram shows a hand with the index finger pointing up, labeled with the letter 'ソ' (So). The second diagram shows a hand with the index finger pointing down, labeled with the letter 'ラ' (Ra). The third diagram shows a hand with the index finger pointing up, labeled with the letter 'ソ' (So).



子どもたちは初めて知る、「ハンドサイン」に興味を持ち、大学教員が「ソソラソ～」の階名の手の動きに注目して真似ようと努力する姿が見られた。しかし、手の形を習得することに課題が見られる児童もいた。そこで、大学教員

がそれぞれの手の形に合った「まっすぐ〜（ソ）」や「おぼけ〜（ラ）」と言葉で歌いながら表現すると、子どもたちも正しい形を手で表現することができていた。まずは、「ソソラソ〜」と階名に合わせてサインを次に「ととけっこうよがあげた」の歌に合わせてサインで表現した。階名と合わせてサインを行う際には比較的スムーズに手の動きもできていた。しかし、歌になると、手の表現が疎かになってしまったり、手に集中すると歌えなかったりといった様子が見られ、歌とサインを同時に行うことは、児童にとって難しいことがわかった。



(2) 12月17日(月) 音階の学習《ハンドサインでわらべうた》——ハンドサインで音の特徴を学習する——

12月3日の大学教員による授業を引き継ぎ、小学部教員でハンドサインを授業の中の教育活動に取り入れ実践を行った。「菅先生と一緒に勉強覚えているかな？」と問いかけると手でおぼけの形を作って見せる児童もおり、サインを覚えている様子が認められた。今回は、前回の児童たちの実態を受けて、歌とサインを同時に行うことは要求せずに、まずは歌に合わせて手のサインを行うよう促した。前で教師が見本を見せると、大多数の児童はサインで表現することができていた。何回かするうちに、歌いながらサインで表現できる児童もいた。さらに、「なべなべそこぬけ」をサインで表現してみようということで楽譜と歌詞を前に提示すると、ピアノの伴奏に合わせて歌いながら既習のラとソの手の形を造り、「ラソラソララララ」の部分表現しようとする姿が見られた。何度か行くと、歌いながら手のサインを行うことができる児童もいた。



4. まとめと今後に向けて

今回、初めて音階をハンドサインで表現する活動を行うことができた。「わらべうた」は、「ソ」「ラ」の音が多く使われているため飽きずに繰り返し学習することができる。今回の実践においても、導入で「ととけっこうよがあげた」を学習し、続く「なべなべそこぬけ」も児童が普段から耳慣れしていたことも影響し、無理なくサインで表現することに繋げることができた。また、歌いながらサインで表現することが難しいということも発見できたと同時に、繰り返し行うことで、できる児童も増えてきたことから身体で覚えていくことの重要性が示唆された。今後も、引き続き、わらべうたや「一休さん」等の親しみのある曲を用いながら、音階の学習を継続していきたい。

5. 引用

こばやしえみこ(案)・まつま せつこ(絵)(2005)『ととけっこうよがあげた』こぐま社
 さいとうしのぶ(編・絵)(2013)『わらべうたであそびましょ!』のら書店